

インサイドからのご案内

2月7日付で建部雅衣さんが新入社員で入社しました。今後、皆様よりのお問合せ、ご注文などでお話しする機会が多くあると思います。ご指導ご鞭撻をお願い致します。



田上、伊東、建部

建部 雅衣

初めまして。2月に入社しました建部です。
私の最近の至福の時間は月1回友達にネイルをしてもらい事です。
ネイル後のスイーツも至福の時間で食べる事も大好きです！
これから皆様にはお電話でお話する事が多くなってくると思いますが
只今バルブの勉強真最中です。
ご迷惑をお掛けする事もあると思いますが1日でも早くなんでも
お答えできる様に頑張ります。皆様宜しく願います。

伊東 祐子

この度、一身上の都合により退職することとなりました。
スモレン便りには、年始くらいしか登場することがなかった
と思いますが、9年間営業事務として皆様の見積りや電話を
対応しておりました。本当に長い間いろいろと皆様には
お世話になりましたことを心より厚くお礼申し上げます。
つきましては、4月1日より建部が後任として東エリアを
担当させていただきます。
今までありがとうございました。



建部、伊東、田上

担当者の一ヶ月



五十嵐 竜太

皆さんこんにちは 小島です。
末の子供の高校受験が無事に終り、一安心して
いるところです。受けた高校の受験倍率は1.03倍。
これで入学すれば、しかたがないと家族で話していま
した。幸い我が家は平穏な春を迎えることができました。
来年は1月に長女の成人式、3月には長男が
高校卒業とひかえています。あともう少し感じます。

今月の目次

- ・ご挨拶 (千葉事業部長)
- ・テクニカルメッセージ 「ランドフトバルブのメンテナンスについて」
- ・今月の特集 「第25回大田区中小企業新製品・新技術コンクール受賞」
- ・イシザキからのお知らせ 「インサイドからのご案内」

◇春爛漫、桜前線北上中◇

ようやく寒かった冬が終わり、いよいよ春本番の香りが日本列島を包む季節になりました。この時期、学校も会社も“新しいお仲間”を迎える季節でもあります。是非、知恵と力を合わせ、たくさんの思い出と成果を残して欲しいと思います。

さて、今月の特集は【最優秀賞！】です。イシザキの本社がある東京都大田区は日本でも屈指の産業技術先進特区ですがランドフトSGが金メダルを受賞する快挙です。SGの技術力と斬新さが第3者機関に認められました。2014年はSGブレイクの年としたいですね。
◇いつもご愛顧頂き、ありがとうございます◇



バルブ事業部長 千葉 和典

バルブのトラブル現象

【スモレンランドフトバルブのメンテナンスについて】

バルブに生じるトラブルの要因や事象は様々ありますが、バルブそのものに現れるトラブル症状としては、「作動不良」と「漏れ」の2つがほとんどです。この症状が引き起こされる要因としては、腐食の発生が挙げられますが、意外と「異物の付着」が要因となる場合もあります。よって、バルブには定期的なメンテナンスやスレーナーなどの設置が必須となります。

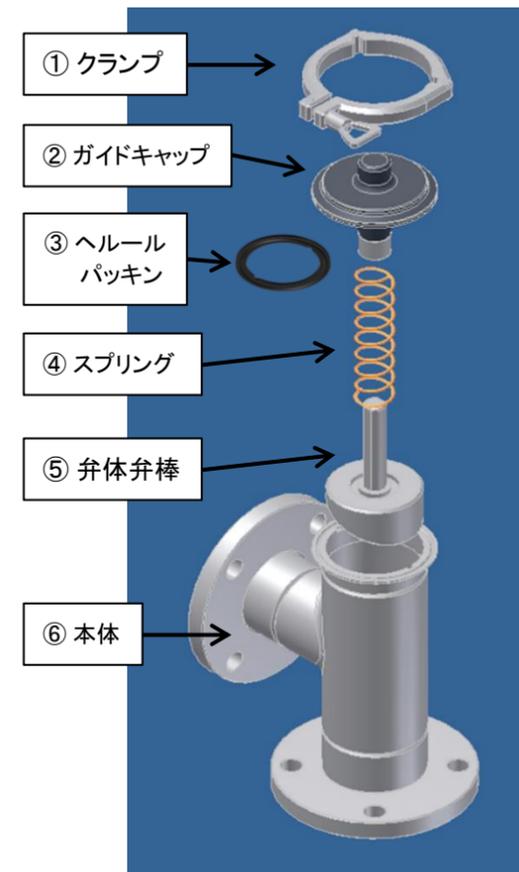
スモレンランドフトバルブSGは、右図のような①～⑥の部品構成です。定期的なメンテナンスが簡単に出来るように、点検口が設けられており、点検口にはヘルール継手が採用され、①のクランプを手で外すことで簡単に分解することが出来るのが最大の特長です。(但し、200Aだけは、M10のナット2個をレンチなどで外す必要があります)。

点検内容としては、

- ① 本体内に異物の無いことを確認。
※異物が混入している際は取り除き、清掃もしくは洗浄。
- ② 右図に示す部品の傷・損傷の有無を確認。
- ③ シートパッキン・ヘルールパッキン・本体ヘルール部の清掃・洗浄もしくは劣化、損傷がある際は交換。

以上の内容が挙げられます。

なお、点検後、クランプを締付けをおこなう際は、手締めにて強く締める程度(4N・m程度)にて作業を行ってください。また、配管振動などでねじの緩みが生じる場合がありますので定期的に確認、増し締めを推奨致します。



ランドフトバルブ 部品構成図

大田区中小企業新製品・新技術コンクール入賞



受賞の風景

2014年2月15日に(公財)大田区産業振興協会主催の中小企業新製品・新技術コンクールが開催されました。趣旨としては大田区内の中小企業が開発した新製品・新技術を発表する機会を提供し、その技術力・開発力を広く内外にアピールするために開催されるコンクールになります。この度スモレンスキブランドフットバルブが最優秀賞に選ばれました。下に審査委員長の解説がごさいます。

最優秀賞には地上設置式フットバルブ【スモレンスキブランドフットバルブ】が選ばれました。埋設水槽内の水を地上のポンプで汲み上げる際、ポンプを停止すると吸込管内の水がタンクに落ちてしまう為、呼び水が必要になります。これを避けるため、通常は吸込管先端の水中に逆止弁を設置しますが、メンテナンス時には逆止弁を引き上げる作業があるなどの弱点がありました。この製品は逆止弁を地上に設置できる構造としたもので、メンテナンスや点検の手間を大幅に削除できるだけでなく、内部構造や材質を工夫することで圧力損失の低減による省エネルギー化や長寿命化をも実現していることが高く評価されました。埋設水槽を持つ建築物はきわめて多く、メンテナンスコストが削減されるメリットによって市場性も大いに期待される製品です。

審査委員長 東京工業大学 佐藤 勲様

～受賞した皆様～



日刊工業新聞に掲載されました

Business & Technology

2014年(平成26年)2月17日 月曜日

4

販売サービス

MONODZUKURI

モノづくり



イシザキ執行役員

フットバルブ

揚水システムのポンプの吸い込み管の入り口に取り付けられるフットバルブと呼ぶ。従来のフットバルブは管の末端に付き、水槽の中投した状態にある。点検や交換の際は水を引上げるか、水中で作業する必要があり、糸が詰ついたり劣化する問題もあった。これを解決するため、イシザキ(東京都大田区)が開発したのが地上に設置するフットバルブ。千葉和興執行役員に開発の狙いや展開を聞いた。

(南東京支局長・川口哲郎)

地上設置で保守容易に

ステンレス製で吸い上げ向上

「地上に設置するフットバルブを開発した経緯を教えてください。」
「水中のフットバルブは鉄製で、引き上げが難しい場合は棒から水を抜き、水を抜かない場合は水が溜まって作業が難しくなる。当社が70年近く、液体の逆流を防ぐためのチャッキバルブを製造、販売してきた。チャッキバルブの改良を目的に市場調査するなかで、お客様の苦悩が吸い込み側のフットバルブの保守で非常に苦労していることが分かった。何とか助けてあげたいという思いから、地上に設置するフットバルブの開発に乗り出した。」

「製品の特色は、設置場所が吸い込み管の末端ではなく、地上の管の中にある。これまで出なかった製品が、顧客にとっては地上に設置する方が手入れが楽にできる。工場内でも使いやすい。工場の冷却水循環ラインなどの用途で引き合いが活発だ。」
「最初に開発したフットバルブは鋼製で、その後ステンレス製を開発しましたね。」
「鋼製は水を吸い上げる際の抵抗が高いため、浅い場所からしか水が吸えず、使用できる現場に制限があった。ステンレス製は錆に強く、脂加工の技術を持っていないが、当初は外注にお願いしていたが、製造コストがかさむため、社内でも生産するようになった。従来の鋼製バルブの半分以下で、ふたを開けるなどの作業が楽になる。」
「一部の内製化も取り組んでいます。」
「鋼製バルブしか手がけていなかったため、ステンレス製バルブをつくることで、売り上げ以外にも得られたのは、」



地上設置するフットバルブ(ワンゲル型ステンレス製SG)

特許取得 海外展開も視野

「使って頂いたお客様から喜びの声をいただいたことは技術者にとって、」
「使って頂いたお客様から喜びの声をいただいたことは技術者にとって、」
「使って頂いたお客様から喜びの声をいただいたことは技術者にとって、」

「使って頂いたお客様から喜びの声をいただいたことは技術者にとって、」